

第3学年 社会科学学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「わたしたちの市の歩み」 教材名「かわる道具とくらし」

2 単元の目標

生活の道具は時代とともに変わり、使い方や暮らしの様子にも変化があることを理解し、地図・写真・統計・説明資料と調査記録を扱う技能を身に付ける。「道具が変わると、人々の暮らしや仕事はどう変わっただろうか」を追究し、根拠を基に考えを表す。自分の記録を見直し、分からないことを確かめながら学習に取り組む。(4)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①生活の道具は時代とともに変わり、使い方や暮らしの様子にも変化があることを理解している。 ②地図・写真・統計・説明資料と調査記録について、対象、条件や時期、調べて分かったことを区別して記録している。	①「道具が変わると、人々の暮らしや仕事はどう変わっただろうか」について、人々の働きや資料同士の関係に着目し、根拠を挙げて説明している。	①かわる道具とくらしの学習で生じた疑問について、自分の記録や友達の考えを基に調べ方や説明を見直し、解決しようとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

「かわる道具とくらし」は、第3学年の(4)を手掛かりに、人々の働きと社会の仕組みを調べる単元である。中心となる理解は、生活の道具は時代とともに変わり、使い方や暮らしの様子にも変化があることである。名称を覚えて答えるだけでなく、「道具が変わると、人々の暮らしや仕事はどう変わっただろうか」に答えるために何を見て比べればよいかが授業の焦点になる。

本案では、同じ仕事をする新旧の道具を比べるところから始め、人々の生活や仕事の変化を考える活動を通して考えを確かめる。結論だけを先に提示すると、観察や資料が答え探しになるため、予想と理由を残してから調べる。単元末には道具と暮らしの関係を説明することで、学んだ言葉と根拠が結び付いているかを確かめる。

学校の既習と実態は資料だけでは決められない。前の記録を見て、説明に必要な言葉や道具の扱いを確かめる。扱ったことのない内容を既習として書き込まず、必要な確認を導入に加える。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

本時では「道具が変わると、人々の暮らしや仕事はどう変わっただろうか」を中心の問いに据える。同じ用途の昔と今の道具を選び、動かすために必要な物、準備、使う手順、作業する人を比べる。博物館などの説明資料で使われた時期を確かめ、生活の変化を年表に置く。

児童の最初の考えを消して正答に直させるのではなく、どの記録で考えが変わったかが分かるよう書き足させる。古い道具は不便で劣っているだけとまとめず、当時の材料やエネルギーと使う人の工夫を読む。現在にも残る道具と用途の違いも確かめる

資料を読むことや書くことが負担になる児童には、比較する箇所を絞った図、読み上げ、指差しや口頭説明を用意する。説明の代筆は児童に内容を確認してから行い、文字量で理解を判断しない。早く説明できた児童には、同じ説明が当てはまらない記録がないかを探させる。

安全と扱いの留意点は次のとおり。家庭の持ち物の持参を必須にしない。古い電気器具や火を使う道具を実際に動かさず、写真や博物館の安全な展示で調べる

5 指導と評価の計画（全6時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○同じ仕事をする新旧の道具を比べる。	知①・知②（記録・活動の観察）
第2次	2	○使う手順や必要な物を調べる。	知①・知②（記録・活動の観察）
第3次	3	○使われた時期を年表に置く。	知①・知②（記録・活動の観察）
第4次	4	○人々の生活や仕事の変化を考える。	知①・知②（記録・活動の観察）
第5次	5 （本時を含む）	○残っている道具や使い方を確かめる。 ○同じ用途の昔と今の道具を選び、動かすために必要な物、準備、使う手順、作業する人を比べる。博物館などの説明資料で使われた時期を確かめ、生活の変化を年表に置く。	思①（個人の説明・記録）
第6次	6	○道具と暮らしの関係を説明する。	態①（記録の見直し・振り返り）

6 本時の指導（5／6（配当案））

（１）本時の目標

「道具が変わると、人々の暮らしや仕事はどう変わっただろうか」について、資料の事実を示しながら自分の考えとその理由を説明できる。

（２）学習過程

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	○前時までの記録から「同じ仕事をする新旧の道具を比べる」ときの疑問を取り出す。 ○「道具が変わると、人々の暮らしや仕事はどう変わっただろうか」 【めあて】調べた事実を使い、自分の考えと理由を説明しよう。 ○一人で予想と理由を書き、調べたい点を確認する。 〈予想される児童の反応〉 ・生活の道具は時代とともに変わり、使い方や暮らしの様子にも変化があるのか確かめたい。 ・前の記録と比べると違いが見つかりそう。	・答えを先に示さず、児童がどの記録を根拠にしたかを尋ねる。 ・家庭の持ち物の持参を必須にしない。古い電気器具や火を使う道具を実際に動かさず、写真や博物館の安全な展示で調べる
展開 （ 分）	○前時までの調査記録を使い、本時は中心の問いに関係する資料を比較する。次に挙げる調査を本時だけで全て実施せず、追加で調べたいことは計画に残す。 ○同じ用途の昔と今の道具を選び、動かすために必要な物、準備、使う手順、作業する人を比べる。博物館などの説明資料で使われた時期を確認、生活の変化を年表に置く。 ○「どの資料の事実から、そう考えましたか」 ○自分の説明を相手に示し、根拠が同じか違うかを比較する。 ○説明できない記録があれば条件や資料の読み方を確認直す。 〈予想される児童の反応〉 ・同じだと思ったが、比べるところをそろえると違いがある。 ・この記録だけではまだ決められない。 ・人々の生活や仕事の変化を考えることで、理由を確認したい。	・古い道具は不便で劣っているだけとまとめず、当時の材料やエネルギーと使う人の工夫を読む。現在にも残る道具と用途の違いも確かめる ・結果に合わない意見も記録へ戻す材料として取り上げ、発言した児童を責めない。 ・比較が難しい児童には記録の対応する箇所を指し示し、まず事実を口頭で説明させる。 ◎思① 「道具が変わると、人々の暮らしや仕事はどう変わっただろうか」について、人々の働きや資料同士の関係に着目し、根拠を挙げて説明している。（個人の記録と説明。交流前後の変更理由を含めて見る。）

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ （分）	○本時の問いへの答えを、根拠となる資料の事実とともに書く。 【まとめ】生活の道具は時代とともに変わり、使い方や暮らしの様子にも変化がある。 ○最初の考えから変わったことと、まだ調べたいことを記録する。 〈予想される児童の反応〉 ・考えが変わったのは、記録を比べたときに違いを見付けたから。 ・まだ確かめていない条件が残った。	・まとめは確認した資料の事実を根拠に書く。資料によって見方が分かれる場合は、作成時期・立場・対象を確かめ、未確認の点を残す。 ・振り返りで分かった支援の必要な点は次時の活動に反映する。 ◎知①（まとめの説明）／態①（記録を見直す過程。発言回数や文章量だけで判断しない。）

（３）板書計画

上段に「かわる道具とくらし」と本時の問い「道具が変わると、人々の暮らしや仕事はどう変わっただろうか」。左側に予想とその理由、中央に実際に調べた事実の記録、右側に事実から考えた説明を置く。中央は条件・時期・対象が分かる見出しにし、比較する記録を同じ高さに並べる。人々の生活や仕事の変化を考える際に用いた記録を残し、根拠と説明を線で結ぶ。下段には確かめられたことと、まだ残る問いを分けて置く。発言の多い子の説明だけで仕上げず、個人の記録の違いを残す。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
 みえ先生ラボ

